

情報誌「まちむら」がご縁で 地域がつながる

岐阜県羽島市 小熊新生防災会会長 疋田一男



王寺町長あいさつ

小熊新生防災会は、岐阜県羽島市の北西部に位置する小熊地区で羽島市防災コーディネーターの認定を受け、防災士資格を取得した16名で平成29年に小熊防災研究会としてスタートしました。

その後、新たに防災士となったメンバーを加えて小熊新生防災会として改名し現在の組織となりました。小熊コミュニティセンターの所属団体として登録され自主防災活動とともに羽島市立小熊小学校での防災教育など啓発活動に努めています。

今回、情報誌「まちむら」がご縁となり、奈良県北葛城郡王寺町の自治連合会さんから

らご依頼を受けて私どもの活動の経緯や日常の活動などをご説明させて頂く機会を得ました。

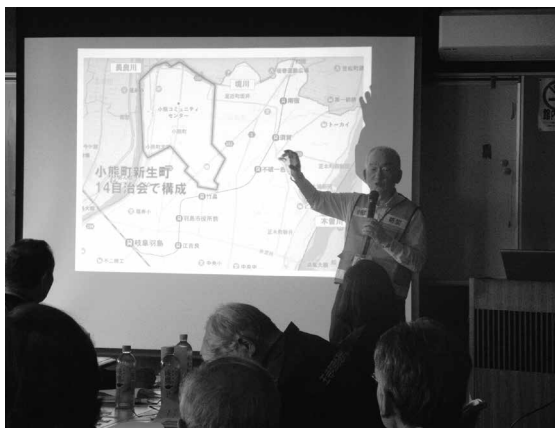
それは1月末にあった一本の電話から始まりました。奈良県王寺町の自治会関係者の県外研修の受入れが可能かとの打診の電話でした。状況が十分に把握できないままお話くらいでしたらさせて頂きますとの返答をしたことを記憶しています。

3月に王寺町役場から令和6年度自治連合会県外研修として5月12日に行いたいが、このまま話を進めても良いかと正式にお申し出があり実現しました。

そもそもは、令和4年度の「あしたのまち・くらしづくり活動賞(あしたの日本を創る協会主催)」に応募したことからはじめます。それをベースに『自主防災活動とコミュニティスクール』として、情報誌「まちむら」に投稿しましたところ、昨年6月発行のまちむら162号の地域のチカラのコーナーに掲載して頂けました。

その記事に対して他県の方から話を聞きたいとお申し出を受けることになることはその時は全く想像もしていなかったことで驚きを隠せませんでした。

4月に入り、王寺町役場職員の方3名が小熊コミュニティセンターを訪ねてくださり、詳しくお話を伺いました。そこで研修



研修の前半は小熊地区の自主防災の取り組みなどについて説明

のアウトラインが見えてきました。加えて十数項目の質問が事前に届きましたので、それに沿った形で研修を進めさせて頂くことにしました。

その内容から防災会のみで対応せずコミュニティセンターや自治会関係者にも同席してもらい小熊町全体としてお迎えした方が良いのではないかと考え参加をお願いしました。

これはこちらからの一方的な説明だけではなく、防災会以外にも自治組織運営者や消防団なども交えてお互いが語り合う形式の方が良いだろうと考えたからです。

5月12日、研修当日は自治連合会のほか

にも町長、議会関係者もお越しになり総勢30名で小熊コミュニティセンターを訪ねて頂きました。対して当方も防災会、自治会関係者等15名で対応させて頂きました。

王寺町自治連合会の井村知次会長と小熊町川瀬自治会長の挨拶から始まり、同行された王寺町の平井康之町長からもご挨拶を頂きました。

研修は小熊コミュニティセンター協議会長と館長より小熊町の概要や過去の災害に關しての説明から始まりました。明治24年の濃尾地震により壊滅的被害を受けたこと、昭和51年9・12豪雨で浸水し多くの家屋が被害を受けたことなどを説明し、いつ災害が起こっても良いような備えの必要性を感じ自治会と防災会が共に自主防災に取り組んでいる話をさせて頂きました。

私からは、羽島市の自主防災活動の現状、小熊新生防災会の誕生から今日に至るまでの経過や日頃の活動を1時間ほどかけてご説明しました。

我々の活動の中で小熊小学校の防災教育を担わせて頂いていることが注目をされています。教育現場に地域の防災士を入れ、防災教育を始めた当時の学校長である鵜飼紀子元校長にもお越し頂き、受入れの経緯や防災会に期待していたことなどをお話し頂きました。



研修受講の様子

同席した羽島市役所危機管理課職員には、羽島市内での避難行動要支援者名簿の作成状況や個別避難計画の現状の報告もお願いしました。

研修行事の前半は小熊町からの説明に終始しましたので、後半は王寺町の皆さんに小グループに分かれて頂き、小熊町から2、3人が加わって座談会形式での質疑応答を



研修の後半はグループワーク形式での質疑応答

行いました。

王寺町の方からは、自主防災組織はあて職のように役割が決まっているが十分に機能しているのか、消防団は日頃どのような活動をしているのか、独居老人宅の耐震支援に関することなどのご質問を頂きました。

王寺町からの長旅のあとの2時間以上に及ぶ研修行事となりましたが、最後まで熱心に取り組んで頂き、自主防災をどのようにしていこうか、今日の話はどう活かしていこうかなど真剣にお考えであることが伝わって参りました。

出来ることを出来るところからと思

行っていることが、他の地域のお役に立つのか少々不安はありましたが、研修を終えお受けして良かったと感じています。

この研修を終えて、王寺町自治連合会長の井村様から次のようなコメントを頂いておりますのでご紹介いたします。

「小熊新生防災会は、私も王寺町と同様、地震等様々な自然災害対策の中で、特に水害への対応を身近な課題として抱えており、今回の研修はより現実感を持って取り組むことができました。

防災コーディネーター制度を取り入れることにより、防災会と自治会組織との連携、更には教育機関との連携による小学校での防災教育等々、地域における防災意識の啓発活動や避難誘導等、様々な事例をご紹介いただきました。正田会長を中心とした積極的な防災活動により、地域コミュニティのみならず学校教育においてもその成果が見られており、感動すら覚えた次第です。爽りの多い講演と手厚いおもてなしをいただき感謝に堪えません。

情報誌『まちむら』の記事が縁となり、素晴らしい研修につながったことを嬉しく思いますし、これを機会に今後とも交流いただくことができればこの上ない喜びです。本当にありがとうございました。」



研修にご参加の王寺町の皆様

以上の井村会長のコメントにもありますように、地域と地域が何かのご縁でつながり、互いの活動から学び、それぞれの町づくりに活かしていくことは素晴らしいことだと思えます。